



高崎高校同窓会報

2010

No.44

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-324-0074

平成22年11月30日

完全燃焼 定期戦5連覇を達成



心のふるさと

群馬の校歌物語

高校編 2

【又】▼1897
(明治30) 年創立▼藤
倉新一校長▼高崎市八
千代町

高崎

校章をかたどったデザインの中に明治、大正、昭和の生徒の集合写真が並ぶ。113年の歴史を誇る高崎の校歌を収録したCDのジャケットだ。同窓会が今年製作した。

副会長を務める大木紀元さん(69)が担当した。CD本体は歌詞の中に出てくるセリアンブルーを基調に、ジャケットの裏面には100周年の時に空撮した学校全景の写真を使った。

タッコちゃん人形の生みの親として知られ、同窓会

歴史つなぐ3代目

平心志 草野 芥川也

作詞 作曲

上州の三つの山は 遙かにかすみ
セルリアンブルーの 島川は流るる
高きを求め 夢の如くに
榛名山 白き雲沸き
バラの香匂ふ 学び舎にて 友よ
健康と真理 勝ち得ん
高崎われらが 母校
未来よ 燦とかがやけ

(1番校歌)

CD製作は「正調の録音が欲しい」といったOBからの要望や、校歌の思い出をつづった新聞への投書がきっかけだった。同窓会が呼び掛け、吹奏楽部や合唱部の生徒やOB計130

人々が昨秋、高崎市の群馬シンフォニーホールで校歌や応援歌「翠樹」などを収録した。現在の校歌は3代目。創立60周年を記念して1957年に制定された。旧高崎中の校歌が最初で、終戦後に「翠樹」が10年余り校歌として歌われた。

勢も落ち着き、新校歌の制定にふさわしい機会だった」と60年史で振り返っている。永長さんが「自由な語形で、伸び伸びと本校独特の雰囲気が出てほしい」と高く評価した歌詞。同校吹奏楽部OBで、CDで指揮も担当した藤倉新一校長(59)は「そうそう」と納得できる部分がいくつもあると話す。

大木さんは1番を締めくくる「未来よ 燦とかがやけ」の歌詞に、各分野で活躍する人材を輩出している同校を見る。校歌は過去、現在、未来をつないでくれる。ずっと色あせない。それをCDとして形に残すことができて良かった。



終業式で応援団の指揮に合わせ、校歌を斉唱する在校生

本部より 校歌等CD制作完成・販売

○購入方法

①直接購入【同窓会事務局】高崎市八千代町2-4-1 TEL027-320-6024

【同窓会新年総会・東京同窓会総会・藤岡翠樹会総会】

②現金書留による購入・郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上お申し込み下さい。

③振込み送金による購入・郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上下記口座にお振り込み下さい。

【口座名】 群馬県立高崎高等学校同窓会 【口座番号】 00110-9-17960

●価格 ①の場合1,000円 ②③の場合1,300円 送料共

ご挨拶



高崎高等学校同窓会長(56期)

■ 原 浩一郎

早いもので今年も残すところあとわずかとなり、雪をかぶった浅間山の暮色がひとときわ蒼くなってまいりました。同窓諸兄の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年も、各界・各方面において諸兄のご活躍を見聞する機会が多くありました。また、在校生の後輩たち

においても、5月の県高校総体では、軟式野球部やソフトテニス部の優勝をはじめ各部の上位入賞により総合2位、沖縄県で開催されたインターハイにバレーボール部と陸上競技部が出場、全国高校囲碁選手権では団体4位、個人5位、またバレーボール部と陸上競技部からは国体群馬県チームのメンバーとして出場するなど、さまざまな場面での活躍は甚だ喜ばしく、また誇らしくも感じるものでございます。

さて、同窓会活動が発展していくためには、若い世代の積極的な参加が不可欠であります。理事会では90期代の方々の参加も見られましたが、今後さらにその数が増え、本会に新風を吹き込んでくれることを

改めて期待しております。

我が同窓会は、学校行事の「社会人講師授業」(1年生)では講師として、「企業・研究所・大学訪問研修」(2年生)では母校と職場の橋渡しとしてお手伝いすることで、在校生との繋がりを持っております。彼らが卒業後、積極的に同窓会活動に参加し、本会を活性化させてくれるよう、母校からそのような依頼やお願いがございました際には、後輩たちのために快くお引き受けくださいますようお願い申し上げます。

同窓諸兄におかれましては、今後ともご健康にはくれぐれもご留意され、益々ご活躍されることをご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



高崎高等学校校長(68期)

■ 藤倉 新一

平成22年10月2日、第64回対前高定期戦本戦が本校を会場として行われました。これまで4連勝で迎えた戦いでしたが、結果はまたも高高の勝利、連勝を5へと伸ばしました。過去を振り返ると、第7回(昭和28年)からの第12回(同33年)までの6連勝が最多ですが、いよいよその大記録に迫ろうかというところ

まで来ました。

当たり前ですが学校では生徒は毎年替わり、3年経てば全員が入れ替わります。そんな中で生徒たちは、実行委員会を中心として企画から運営まで見事にやってのけます。そこには生徒たちの3年間の大きな成長ぶりが見られ、この定期戦と、もう一つの大きな行事翠濤祭とが、高高的輝かしい歴史と伝統を織りなす太い縦軸になっていることを改めて実感した次第です。

閉会式での実行委員長あいさつの場面では、サプライズで本校高橋君の音頭で高高生全員の囀りの声のエールをもらいました。校長最後の定期戦勝利を祝ってのものということで

したが、思いがけないプレゼントに思わず目頭が熱くなりました。長い教員生活の最後の4年間を母校で過ごせた自分は何と幸せ者なのか、素晴らしい生徒・教職員にただただ感謝の瞬間でした。

最後になりますが、同窓会の皆様方には、同窓の校長ということで暖かく迎えていただくとともに大きなお力添えをいただいたこと本当にありがとうございました。今後、高崎中学・高崎高校同窓会の益々のご発展と同窓諸氏のご活躍をお祈り申し上げますとともに、これまでに賜ったご厚情に心より感謝申し上げます、あいさつとさせていただきます。

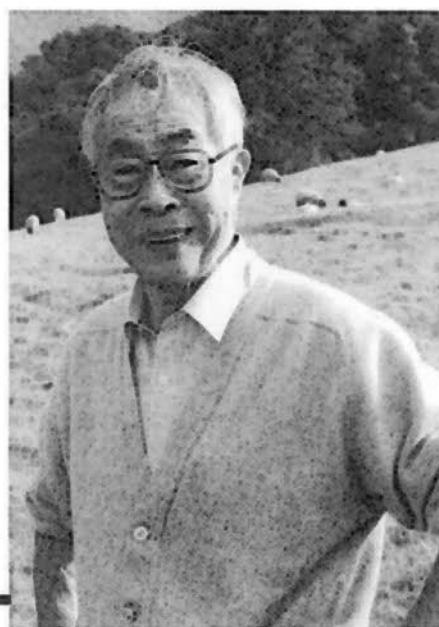
4年間、お世話になりました。

潮流

普遍史とトランスナショナルの 流れに生きる時代

土井 泰彦

ルーマニアスピルハーレット大学名誉教授
(元文教大学教授 政治学博士 51期)



イギリスでは一九世紀に『ケンブリッジ近代史叢書』の編纂者アクトン卿が「諸国民の物語はそれ自身のために語られるのではなく、それらが人類の共通の運命に貢献した時代とその度合いに応じて、語られなければならない」という編集方針を打ち出しました。

近代史を自由の理念の発展に関する歴史と考えるもので、自由の理念の発展という川の主流を堅持し、支流についてはそれが主流に合流する点において注意を向けるというものでした。

自由の進化への視点からすると、日本で無名に近い過去の日本人が米欧の大学図書館の文献に登場し、インターネットの英語版フリー百科事典の項目でスペースを割り紹介されている背景を理解することができると思います。

明治維新期の無名の青年達の遺産

明治初期の自由民権運動についてはかなり詳細な研究が行われており、民選議院設立を求める要望書が政府に提出された明治七（一八七四）年から、国会開設の詔勅の下された明治一四年までに、民間から出された私擬憲法は、その数実に六〇余りにのぼっています。

各結社の私擬憲法草案の作成に向けた時流に対し、政府や官界は大日本帝国憲法の発布

に悪影響を及ぼすことを恐れ、明治二〇年に保安条例を制定、禁止措置を講じました。私擬憲法草案は無用とされ、明治二三年の国会開設の前年に公布された大日本帝国憲法に反映されることはありませんでした。

しかし維新期に志をもつ青年たちは政府の干渉を避けながら各地の結社で討議を重ね、他の結社と交流しながら日本国憲法の草案を作り上げました。

そのうち、東京西郊の五日市学芸講談会を母体に討議を重ね起草者となった千葉卓三郎（嘉永五年生）の「日本帝国憲法」と、土佐の立志社を足場に「東洋大日本国^{とうようだい にほんこく こっけんあん}憲案」を起草した植木枝盛^{うえき えもり}（安政四年生）の時代を先取りした先進性、自由や人権に対する鋭敏な感覚はひととき目立っています。

維新期の激動に揺さぶられた青年達が世界の歴史にわが身をおき描き出した、人類普遍の原理としての主権在民、政治道德の普遍性、基本的人権の共有、国際社会の一員、平和志向という価値観が、立憲国家の必須の原則として浮上しているのです。

戦後日本の新憲法^{しんけんぽう}の精神ですら、むしろ明治初期の自由民権運動の最先端に位置した若き人の手になる憲法草案の延長線上にある思いがするのです。

時代を先んじた維新期の憲法草案

仙台藩士の家に生れた千葉卓三郎は維新期にそれぞれの流派の思想家や宗教家の教えを進んで受け、商業や洋算など実学も習い、二〇代後半に関東の五日市に創立されたばかりの公立小学校教員の職と同地の学芸講談会で力を発揮する場を見出したのでした。

千葉卓三郎の「日本帝国憲法（五日市憲法）」は、国帝の下での三権分立、元老院と民選議院からなる二院制議会、元老院の議員に民選議院の議長と三回以上選ばれた民選議員を含めた民選議院の実質的な優位性、議員の公選制と選挙民の一定の制限、法に基づく司法権の厳密な行使による人権保障など、総合的体系をもっています。

千葉卓三郎の構想は、ある程度まで現実的な足場に立ち、段階的に社会の政治的自由の進化をめざすものでした。しかし、国民の人権については相当の条項をさき、法を遵守するかぎり検閲を受けることなく自由に思想や意見・図絵を発表し、演説・討論を公に行うことができなければならないと、きわめて具体的な表現を用いています。

また国事犯のために死刑の宣告を不可とし、法定の重罪を裁く際や著述出版の犯罪の軽重を定める時など微妙な判定を要するさいは特例を除き陪審官がこれを行うなど、事件を評議にかける制度の採用にふみこんでいます。

その一歩踏み込んだ人権保障条項の背景には自身が良かれと信じた行為に対し、神仏に対する不敬罪を問われ、過去に入牢・苦役を強いられた苦い体験がうかがわれます。

他方、私擬憲法草案では二二〇条と最も条文の多い「東洋大日本国国憲案」を起草した植木枝盛は土佐藩士の家に生れ、明治七年一七歳の時に自由民権運動の指導者・板垣退助

の演説を聞き、政治意識に目覚めたといわれます。

翌年に上京、啓蒙思想家の演説やキリスト教会の演説会を聞くことを通し自身の教養を高め一九才で「郵便報知新聞」に「猿人政府ひとをさるにするせいふ」と題する記事を投稿、二カ月間投獄されました。その後、立志社の機関紙編集者となり、二四歳で私擬憲法中もっとも大胆な民主政体のための日本国憲法を起草するに至りました。

植木の憲法草案が際立って特徴的なことは、日本を皇帝の下に各州からなる連邦制としたことで、さらに連邦と州の常備兵設置とともに、外からの攻撃を受け危害の迫らないかぎり戦争を行わないと規定しています。

また日本国民は法律上平等であること、法律外においても自由な権利を侵されないこと、恣意的な専制政治に陥らないため連邦政府の三権の分立を原則としました。

また国民の権利として死刑の廃止、拷問の禁止、思想の自由、信教の自由、言論の自由を規定し、政府官僚の圧制に対する革命権、憲法改正のための立法会議を定め、州に関してはどのような政治体制をとるかの権限を委譲しています。植木の憲法草案はきわめて大胆かつ未来志向であるといえましょう。

千葉卓三郎の普遍史への登場

千葉卓三郎の憲法草案の発見は盟友であった深沢権八家の土蔵が戦後二〇年を経た昭和四三年に色川大吉東京経済大学教授とゼミ生の手で開けられたことに端を発しました。

同時に発見された多数の文献には、フランスの各種法律書、イギリスのJ・S・ミルの『代議政体論』やベンサム『民法論綱』、ストーリーの『米国憲法』、千葉二一才の時来日したフランス法学者ボアソナードの司法省法学校

の講義録など政体や法体系に関する外来書の翻訳本多数が含まれていました。

千葉卓三郎や植木枝盛の草案を前にし、維新期の志をもった青年の世界先進国の思想や宗教、政体や法哲学などを吸収せんとした意思の強さと吸収力は、政府の欧米派遣団の持ち帰った智識と比べ何ら劣るところはなかったのではないかとと思われるのです。

千葉卓三郎の「日本国憲法」は発見者の色川教授が米プリンストン大学で、学生にその成り立ちについて講義したことを契機に、日本民族史の典型としての価値が広く認められることになりました。

色川大吉著『明治の文化』の英訳が出版され、タクロン・チーバーとゴンパチ・フカサワの名がアメリカの大学図書館の目録に加えられたことは人間の魂にふれる自由の進化への川の流れの一つとして、普遍史の流れ位置づけられたとみることができます。

とくに千葉卓三郎が私擬憲法起草の最重要参考資料とした元老院蔵版の西洋の『法律格言』に自己の所見を書入っていたことは注目を浴びました。

曰く、「国王は決して死せず」は「国王は死す、国民は決して死せず」へ、「法律は国王の所有中もっとも貴き遺物なり」は「法律は国民の所有中もっとも貴き遺物なり」へ、「国王は公道の源なり」は「国王は公道の源なり、国民も同じく公道の源なり」へ、「国王は人の権力の下にあらず、神と法律の下にあり」は「国王は人の権力の下にあらず、しかれども天と法律との下にあり」へ……その書換えは政治哲学の核心に迫るものでしたが、彼の命は憲法草案の起草で燃え尽き2年後の明治十六年、三一歳の若さで死を迎えることになりました。

国家と超国家的価値の共存

近現代史に見る、国家至上主義から超国家的価値の加速する過程はすでに明治維新の民権運動にはっきりと映るのであり、どの国家も無傷ではありえませんでした。私たちの身体には国家とトランスナショナルの流れが共存しているのです。

ここで旧制高崎中学に籍をおいた中曾根康弘氏（元総理）が若い時から世界に目を開き、また自分に課した日本国憲法改正への視点が心に浮びます。

この憲法改正のテーマは核廃絶の過程や国際テロへの対処の難問にからんでくるものであり、国連の改編もふくめ国家とトランスナショナルの流れの共存にも大きな影響を及ぼす可能性を秘めるものではないでしょうか。



経歴

昭和33年 早稲田大学大学院政治学研究科中退
フジテレビジョン入社 放送開始準備室
昭和50年 ロンドン支局長
昭和54年 外信部長
昭和57年 報道センター室長
昭和59年 サンケイ新聞社論説委員 国際関係担当
昭和63年 フジサンケイグループ退社
九州共立大学 経済学部教授
平成3年 文教大学 国際学部教授 政治学・国際関係論
平成16年 退任
(財)オイスカ評議員

著書・学術書

「イギリスの底力」(サイマル出版会 1981)
「新版 国際体制論」(文真堂 1994)
「近代日本戦争史」第3篇(同友会経済懇話会 1995)
「対日経済戦争1939～1941」(中央公論事業出版 2002)

寄稿

ある会合

持田 章

(元前橋南高校教頭 51期)



いつごろ始まったか定かではないが、三十余年前に三、四組の夫婦にその源があるようだ。51期同期生による夫婦会、現在も九組の名残りで続いている。一人欠け、二人欠けと人数は減少傾向にあるが、年三回のペースは維持されており、一回が終わると、すぐ、次回開催が図られる。

若かった頃は、車を連ねて、一泊で、あちこち廻りつつ、政治・経済、戦争体験、各自の仕事などからスポーツ、趣味、家族の話、友人の噂等々の話題が続いたが、今では、ちょっとエロイ話から病気、老化など身体に関する内容が増しており、時が尽きない。余命のことが、皆の関心事になっている証左だ

ろう。次は誰の葬式だ?とか、俺の弔辞はお前に頼んだぞとか、えらい方向に話が進む。それでも和気あいあい、笑いが切れないし、誰も自慢話や非難話をしないのが清々しい。

そんなある時、いつも幹事役をつとめてくれているY君からの提言があり、大物ゲストが来るという知らせがあった。小さい店の狭い部屋でのスキヤキパーティだったので、一同不審に思ったものだが、現れたのは福田康夫元首相ご夫妻。Y君とは入魂の間柄。たまたま当日、食事の誘いがあったので、会の事を紹介したら、参加したいとの要望だったという。膝をつき合わせるような状態での会食、気のおけないご夫婦とみた。



寄稿

「61会とは」で議論

白石 健一

(61会有志・幹事 61期生)



「65才以上」という指標が何かと使われるが、我等61期生（61会）はこの65才を2年前にクリアした高齢化社会を構成する初老の集まりである。

会の発足は、高高同窓会の幹事期となった1992年、高崎在住者を中心とした集まりで会の名称を「高高61会」に決定、生涯会長として本間良和君（柳川町、割烹みその店主）を選出、規約等の形式は省略し有志を幹事に見立てて実態上のスタートを切った。その直後には京浜61会も立上げ、すでに大中小のイベントを企画、実行し今日に至っている。

還暦を迎えた年に始めた懇親、ゴルフ、観光で構成する全体イベントは暗黙の了解なのか、65才以降は毎年開催し、常に70名前後が参加、延参加者数は相当数になる。今年は10月に老神温泉で開催したが、実はその準備会を兼ねた酒席で「61会とはいかなる会か」が議論になった。イベントへの参加義務観が発端となり、酒の力も手伝ってか各々が持論をぶつけあった。明確な結論は出なかったが「会員の良識と秩序ある自由、これを担

保する会の抱擁力、ようするに固苦しいことは抜きでいこうぜ」で何となくその場は落ち着いた。

メンバーの大半はすでに労働生活から引退しているが、現役で活躍中の者も多数いる。健康的には年並であるが、この現退が合わせ持つパワー、ノウハウは実に多彩であり、その人脈を含めて我等61会の相互扶助機能と会員の自給自足体制はかなりのものだ。

ともあれ、楽しく語り遊ぶを基調とした61会、少なくともこの先10年は肩組み合って、翠巒で大声を張上げたいものだ。



寄稿

政治の季節の落し子

中島 政希

(衆議院議員 71期)



私は元々おとなしい男で、本来なら政治や選挙に関るような戦闘的な人間ではない。それが生涯を政治闘争に費やすことになったのは、十代後半の時代環境の影響が大きい。

私が高高で過ごした一九七〇年前後の三年間は、冷戦と高度経済成長の最盛期だった。一年の時にはよど号ハイジャック事件、二年の時には三島由紀夫割腹事件、三年の時には連合赤軍の浅間山荘事件があった。ベトナム反戦運動や大学紛争の嵐が吹き荒れる物情騒然たる時代環境の中で、私たちは高校生活をおくった。

ソビエト・ロシアも文革・中国も元気一杯で、社会主義、共産主義がまだ輝きを失っていない時代であり、若者たちの多くはマルクス主義に強く惹かれていたものだが、私は少数の反共派で、自由主義日本を守らなければならないと過剰に意識していた。

私は、友人たちが猥談に興じるのを横目に、左右の政治論をむさぼり読んでいた。嫌いな数学や物理や化学の授業中は、格好の読書時間と化していた。周囲からはかなりの変り者

と思われていたのではないだろうか。しかし当時の高高には、先生や生徒の間に、そうした変人的な（よく言えば個性的な）存在を許容する雰囲気濃厚にあった。

あの三年間は戦後史でも稀な「政治の季節」だった。私の政治思想の基礎はあの時代を背景につくられ、根本においては、今もそれほど変わらない。

思えば、あの時代の高高は、政治の季節の落し子たちにとって、のどかで居心地のよい揺籃の如きものであった。



国会見学に訪れた高々71期同期生の有志とともに(H22.9.16)



私の仕事

学ぶことの意味と 人間の存在の真実の露呈

下田 好行

(明治学院大学 教授 77期)

1 オランダで感じた教育のかたち

私は平成21年の11月に自分が抱えている研究プロジェクトでオランダに行った。オランダの空はどんより曇っており、それにとっても寒い。オランダの人たちはこんな雰囲気の中で暮らしているのだろうか。オランダ人の我慢強さを感じた。オランダでは子どもたちや親が学校を選択する自由が保障されていた。そのために小さな学校が点在していた。オランダでは、校長が教育方針を示し子どもに教育を行っているという実態があれば、公立私立の区別なく予算が国から配分される。学校も基準を満たせば自由に作れるらしい。学校の教育内容や教育方法、行事、教科書の採択、教員の採用も学校独自で決められるのだそうだ。

私は「この国の教育の方向性はどこで作られるのですか」と聞いてみた。文科省か教育委員会、大学とかの答えが返ってくるかと思っただけの質問だった。オランダ人

はこの問いの意味がよく分からないようだった。怪訝そうな顔をしていた。オランダでは国家は教育の内容や方法までには介入しないそうだ。国家は予算を配分するだけで、教育はあくまでも学校とその保護者が作っていくというスタンスをとっている。こうした雰囲気の中で質の高い教育が継続的に維持されるのはなぜだろうか。それはオランダ社会が培ってきた個人の権利と責任の意識からくるのではないだろうか。

そういえば移動で電車を使ったことがある。オランダの電車はあらかじめ販売機で行き先までの切符を買って乗る。しかし、駅に改札がないのだ。これでは切符を買わなくても乗れるのではないか。実際はオランダの電車は時々車掌が回ってきて切符をチェックする。そのとき切符がないと多額の料金を請求されるそうだ。こうしたことができるのはオランダが成熟した社会であるからではないだ

ろうか。個人の権利の保障、それに伴う自己責任が社会のなかで醸成されている。日本もオランダのようになればよい、とそのとき思った。

2 学ぶことの意味と

人間の存在の真実の露呈

新聞紙上でも報道されたTIMSS(国際教育到達度評価学会)2007では、「数学・理科を学習する重要性の意識」の設問で、「数学・理科を勉強すると日常生活の役に立つ」の項目で、数学が71%、理科が53%の子どもが役に立つと思っていないことが分かった。また、「将来自分が望む仕事に就くため数学・理科でよい成績をとる必要がある」の項目では、数学が69%、理科が56%の子どもが学校の学習と将来と職業とのつながりを意識できていないことが分かっている。この部分は国際的にみて日本は非常に低いレベルである。ここからは日本の学校で学ぶ内容は、現実社会とリ

ンクしておらず、自分の将来（職業）とのつながりもない。ここからは日本の子どもが今ここでこのときに、学ぶことの意味というものを把握することができずにいることを物語る。

人間は自分にとって必要なことは人に言われなくてもする。その学びに対して学習意欲がわからないというのは、その学びが自分にとっては必要ないか、あるいは自分とのつながりが見えないためである。現在、学校では教科書を中心とした一斉授業が行われている。ここで扱われる教材が個々ばらばらの知識の寄せ集めであり、それが現実社会とどのようにつながり、自分の将来にどのように影響しているかについて見えてこない。その結果、子どもは今行っている学びの意味を理解することができないのである。

現在、教育現場では教科書を使った一斉授業が行われている。なかには教科書をなぞるような授業も実際には多い。教科書には教師用指導書もあり、単元計画や詳しい解説まで掲載されている。指導計画は教師が作るのではなく、教師用指導書の計画になってしまっている。この計画に沿って授業をすれば、どこの地域にいても教科書が同じであれば同じような授業が行われることになる。画一的でおもしろみのない授業である。教師もつまらないと思いながら授業をしているのではないだろ

うか。教師がつまらないと思いつつながら授業をしていて、子どもがもしろいと思うはずはない。やはり、教師が「これはおもしろい」と思った教材でないと子どもの眼も輝かない。

私は大学院をでた後、群馬県の公立高等学校の教師をした。そして大学の教師になった。最初は東京都にある短期大学の専任講師となった。講義では百人くらいの学生を教えていた。教育学のテキストを使って教えていたが、学生の私語に参ってしまった。学生に再三注意しても静寂は3分としかもたなかった。このような問題は何も私に限ったことではなく、多くの大学教師の悩みでもあった。当時、東京23区内の短大で講義が成立しているところは数少ないとの噂があった。大学教師は私語のなか、誰も聴いてくれない講義をたんたんと行い帰って行くのである。

考えてみれば、学生の学習意欲が喚起されないのも当然であろう。短期大学であれば将来教職につくこともない。今行っている学習が自分の将来に影響しないのであるなら、学ぶことの意味もつかめない。そのうえ、教育学のテキストの内容は難しく、学生との心理的距離も遠い。そんな状況のなかで私はある時、テキストを使つての講義をやめることにした。そして、かつて私が教師として学校に勤めた経験をもとにして教育を

語るという講義に変えていった。すると驚いたことに私語をする学生がいなくなったのだ。私は自分の声が学生に届いているのを実感した。「そうだ、教材は外に探すのではなく自分の内側に既にあったのだ」そのとき私は気づいた。自分自身がこれだと思つた教材でなければ、語る言葉にも力が入らない。教師が自分でおもしろいと思わないで、子どももおもしろいと思うはずはない。まずは教師自身が自分の内面にある教材に気づいていくことが重要であろう。教師の存在の真実が露呈されてこそ、児童生徒の心に響く。しかし、今教師は忙しく、教材研究をする時間もとれないと言われている。労働時間も長く、精神的にも緊張が続く環境となっている。

今、日本は財政的にも経済の面においても問題を抱えている。成長戦略で雇用を生み出すことの必要性も叫ばれている。新たな雇用を生み出すのは人間の創造力である。こうした創造力を生み出すには教育に望みをかけることが重要だ。学校や授業が創造性で満たされるような場にする必要がある。子どもの創造力は教師の創造性のある授業に刺激されて引き出されるからである。そのためには教育にもっとお金をかけるべきである。無駄な財政支出を切り詰めながらもお金を使うべき所には使う必要がある。

同窓会だより

五四会活動報告

田端 穰

第54期同期会(五四会)は毎年総会、懇親会を開催し、会員相互の交流を図るとともに、「五四会通信」(年一、二回)を発行して、同期のさまざまな情報・消息を発信している。

総会・懇親会では多様なアイデアが提案され、それが承認されると、それを直ぐ実行してしまうのが五四会の流儀。その具体例を二、三。

1、故塚田亨(美術)先生の納骨

先生はご家族の縁が薄く、墓はありながら、そのご遺骨は納骨されないうであった。その納骨への支援が提案され、その場で即座にカンパし資金を募り、導師を茨城より招き、バラの花を象った墓石の下に納骨した。

2、卒業50年モニュメントの建立
卒業50年を目前の02年の総会で、記念事業としてモニュメントの建立を決め、その本体は同期の半田富久君から作品提供を受け、台石に吉永哲郎君の撰文を鋳込んだ金属板をはめ込むものとした。資金は瞬く間に111万5千円が寄せられ、記念の年を待たず、03年4月に事業の全てが完了した。これ(作品「おっす!」撰文「熱き思いの碑」)は浜名光彦氏(新指月庭設計者・55期)のご指導、ご協力により、新指月庭の一角に設置させてもらった。

3、五四会作品展

退職して10数年、この間楽しん



できたさまざまな成果を発表してみようとの提案が認められ、今秋シティギャラリーで油絵、書道、陶芸、写真等17名の45作品を得て開催され、多くの方々が来場して下さり感謝している。同期生の交流の場として、予期以上の成果があがり大成功だった。(前本部幹事長 54期)

五十年過ぎても お蔭様で元気です 山口 勝

同窓会報いつも有難うございます。

昭和32年(第56回卒)卒業以来群馬の地を住居とする機会が無いまま仙台から大阪までの間を転々としたため同窓会にも出席する機会も作らずこんなに長い月日が経ってしまいました。(数年前に帰省の折母校の校門の前に立って見ましたが全く変わっているのにびっくりしたこ

とがありました。)

同窓会としては大阪にいた頃には京阪神地区の翠鸞会として定期的に会合がありそれに参加をしていたのです。それも同地区の群馬県人会の会合の後、日程を決めてあの有名な道頓堀の「くだおれ」で催されていました。この会合の面白かったのは同じ部屋で「高商」「高工」の同窓会も一緒に行



県人会での記念写真です。写真の右から須藤 幸雄(58回卒) 石川 正樹(59回卒) 山口 勝(56回卒) 藤巻 忠雄(67回卒)以上の皆さんです。

なわれ酒を飲み交わした事です。お互いに校歌を歌いあい楽しい賑やかな時間も過ごしました。やがて又大阪を離れたので関西地区での翠鸞会への参加も

それまでになってしまいました。その後中京地区に来て(結果としてここが終の棲家となったのですが)からは先輩や後輩探しもしながら中京群馬県人会としてのグループに参加をして今、同会の副会長として微力ながらお手伝いをしておりその範囲での行動になってしまいました。ここ中京地区は若手に通勤族が多いのは地域柄でしっかり腰を落ち着けているのは比較的高齢の層となり又数も少なかった事もあり新規に会を立ち上げるまでには行かなかったわけです。その為県人会の開催の日には敢えて同窓のメンバーが揃い写真に納まるのがせめてもとと考えている現状です。

そんな訳で今回中京地区にもこんな仲間がいることをこの機会にお知らせしようとした次第です。諸先輩も居りますが当日の参加者のみで少ないのは残念ですが。

(中京群馬県人会副会長 56期)

卒業五十周年 記念事業を終えて 広田 政道

我々59期は今年で卒業満50年を経過しました。

59期同窓会は毎年の恒例事業として①全体同窓会新年総会の終了後に「59期同窓会新年会」を開催。②8月半ば頃に「納涼会」、③年4回のゴルフコンペ、④年2回の59期埼玉同窓会、⑤適宜開催の東京同期会等のほか、部分的会合も随時開催されています。

ところで、50周年記念事業は5月

22日、23日の両日35名の参加で行われた。当日は高崎駅西口集合の後、指月庭創設者の旧井上房一郎邸（現市美術館）を無料にて鑑賞した後に、当時の高崎駅周辺や高崎高等学校付近の住宅地図と現在の地図等を手元に持って、旧市街地を一巡りしてその変貌のあり様に全員驚いた。母校内施設（在校当時のものは皆無）を一回り見学し、観音山慈眼院本堂にて昼食をとる。



箕輪城跡を地元ボランティアの解説に耳を傾け見学し、榛名湖畔の「ゆうすげ荘」へと向かう。その晩の親睦会は昔話に華が咲き夜遅くまで語らいが続いた。卒業以来初めてという者もいた。

翌朝は小雨降る中「湖畔の宿」の歌碑を見学し、松井田町の鉄道文化村、富岡製糸場とバスを進め夕方には高崎駅東口に到着し、三々五々解散した。

名簿は2年に一度更新したものを全員に郵送し、このときに会費（2年間分2千円）を振り込み依頼している。貴重な維持会費となっている。

今年の納涼会は8月12日に54名の参加のもと盛大に行われ、この会を80歳までは続けようと互いに誓い合った。

なお、毎年端午の節句前に校庭に掲げられている鯉のぼり（56期の先輩の皆さんが寄贈したもの）が、「だいぶ年数が経ち、色褪せたので新しいものに変えて欲しい」との要請が常任理事会の席であったので、59期で新しい同じものを寄贈させていただきました。

（59期代表幹事 59期）

「酔乱二日会」のこと 熊野 卓司

66期の仲間は、昭和42年（1967）3月の卒業以来、43年間にわたり毎年新年会を開いている。当初は旧3年2組のクラス会が主体であったがいつしか他のクラスの人も多く参加するようになった。ある時から帰省するタイミングを計

り、正月2日を開催日とするようになった。そこで名付けたのが「酔乱（酔狂）二日会」、84才になる恩師の高橋信男先生も毎回ご出席いただいている。われわれのクラスの代表は黒沢順一君だが、生徒会長であった小林優公君も毎回ご出席いただいている。われわれの仲間は大変仲がいい。キッカケは学校創立100周年の時に新年会の幹事期を務めるこ



とになった事。母校の創立100周年の年ということで、前祝いの新年会と位置づけ、アトラクションに「高々100年」というビデオを制作し会場で上映、独自の乗「高中・高々の100年」を作って配布した。校歌のテープを再編集したり、校章入りのネクタイの制作まで全て同期の専門分野を生かした新年会になった。そのビデオは当時の故・小山禧一同窓会長の目にとまり、それを再編集したものが正式な100周年記念品になった。それ以後新年会の幹事が企画を争うようになったはじめといわれている。この時をキッカケに同期の中にいろいろな交流が再開した。会社勤めの人定年を迎える。それぞれの新しい転機だが、我々の友情は変わらない。「高校3年生」の歌詞のように「クラス仲間はいつまでも」である。

（考房くまなじり主宰 66期）

母校だより

■各部の活躍・活動

陸上競技部 3年 須田貴士

先生方のご指導のおかげで、3名がインターハイに出場することができた。沖縄開催という、ある意味で特別な意味合いを持つ今年のインターハイに出場できたことを、非常に嬉しく思う。これからは、私たちを支えて下さった先生方を初めとする多くの方々への感謝の意を忘れずに、インターハイでの経験を人生の中で生かしていきたい。



バレーボール部 3年 菊池新太

顧問の塚本先生、加邊先生またOBの方々の御指導御協力の下、12年ぶりのインターハイ優勝を果たすことができましたが、全国では自分達の力を全く出すことができず、大きな力の差を痛感させられました。しかしこの経験は人生の大きな財産になったと思います。あの時の欲び、あの時の悔しさを胸に新たな目標に向かって日々努力していきたいと思っています。



運動部の活動

- ①県総合体育大会
- ②関東大会
- ③インターハイ予選
- ④全国高校総体
- ⑤国体
- ⑥県新人大会
- ⑦その他の大会

硬式野球部

○春季大会

2回戦 高崎3-4 富岡

○選手権 群馬大会

2回戦 高崎8-10 樹徳

○秋季西毛リーグ

高崎5-5 健大高崎

高崎9-4 吉井

高崎7-0 高崎北

高崎7-3 東農大二

高崎3-0 中央中等(4勝1分)

準決勝 高崎8-1 富岡

決勝 高崎5-4 高崎経附(優勝)

○秋季大会

2回戦 高崎0-2 桐生市商

ラグビー部

①1回戦 高崎29-0 興陽

準々決勝 高崎7-90 明和県央
(ベスト8)

⑦県高校選手権大会

1回戦 高崎71-5 桐一

準々決勝 高崎0-17 太田
(ベスト8)

サッカー部

①1回戦 高崎4-0 桐南

2回戦 高崎0-0 高商
5PK6(ベスト32)

③1回戦 高崎1-0 桐生

2回戦 高崎3-0 太田商

3回戦 高崎1-0 高経附

4回戦 高崎0-3 前橋育英
(ベスト16)

⑥高崎4-1 太田商

高崎5-1 太田工

高崎1-3 桐一(ベスト16)

⑦全国高校サッカー選手権大会

群馬県大会

高崎1-1 共愛

4PK5(ベスト16)

陸上競技部

①齋藤郁磨 200m 決 5位

古市真也 800m 決 3位

関口頌悟 1500m 決 2位

関口頌悟 5000m 決 3位

市川響太郎 110mH 決 2位

須田貴士 5000mW 決 1位

佐藤誠一郎 5000mW 決 6位

4×100mR(高橋・東間・齋藤・田代)決 5位

4×400mR(真鍋・長壁・古市・田代)決 4位

大澤佑太 走高跳 決 3位

櫻井泰人 砲丸投 決 6位

櫻井泰人 円盤投 決 4位

原 義明 やり投 決 3位

関口俊介 八種競技 決 4位

総合3位

②③齋藤郁磨 200m 予 組7位

古市真也 800m 決 3位
(入賞)

関口頌悟 5000m 決 12位

市川響太郎 110mH 準 組5位

決 組3位

須田貴士 5000mW

決 3位(入賞)

4×100mR(東間・田代・齋藤・市川)予 5位

4×400mR(田代・齋藤・古市・長壁)予 5位

大澤佑太 走高跳 決 16位
市川響太郎 棒高跳
決 2位タイ(入賞)
櫻井奏人 砲丸投 決 17位
円盤投 決 23位
原 義明 やり投 決 11位
関口俊介 八種競技 決 12位
男子総合成績 第10位

④古市真也 800m 予 組6位
須田貴士 5000mW 予 組12位
市川響太郎 棒高跳 予 組14位

⑤市川響太郎 少年B 110mJH
決 6位(全国入賞)

⑥東岡中央 100m 決 5位
齋藤郁磨 200m 決 4位
大谷拓嗣 800m 決 6位
川上 航 1500m 決 1位
吉野順久 1500m 決 2位
大谷拓嗣 1500m 決 4位
新井琢也 1500m 決 8位
牛窪浩平 5000m 決 1位
小林水友 5000m 決 3位
川上 航 5000m 決 6位
田中 渉 5000m 決 7位
市川響太郎 110mH 決 3位
石原 翔 3000mSC 決 8位
佐藤誠一郎 5000mW 決 1位
4×100mR(東岡・田代・齋藤・市川)決 2位
4×400mR(田代・齋藤・関口・長壁)決 2位
有吉淳弥 走高跳 決 7位
市川響太郎 棒高跳 決 2位
齋藤郁磨 走幅跳 決 2位
阪本哲郎 三段跳 決 5位
吉田晋平 三段跳 決 7位

※3位以内の上記10種目で関東選抜新
人大会(宇都宮)に出場

⑦県高校駅伝(群馬県伊勢崎市・伊勢崎市
陸上競技場周回コース)

牛窪浩平
金井美海
関口頌悟
小林水友
丸茂昌寛
田中 渉
川上 航

総合成績 第4位

※11年連続関東高校駅伝出場権を獲得

⑦関東高校選抜新人大会(宇都宮)

川上 航 1500m 予 組1位
決 組8位
(入賞)

吉野順久 1500m 予 組5位
牛窪浩平 5000m 決 12位

小林水友 5000m 決 11位
市川響太郎 110mH 予 組4位
佐藤誠一郎 5000mW 決 12位
4×100mR(東岡・田代・齋藤・市川)予 組3位
4×400mR(田代・齋藤・関口・長壁)予 組4位
市川響太郎 棒高跳 決 13位
齋藤郁磨 走幅跳 決 6位
(入賞)

⑦群馬県選手権大会(前橋)

川上 航 800m 決 5位
一木悠太 800m 決 6位
古市真也 800m 決 6位
古市真也 1500m 決 6位
吉野順久 1500m 決 6位
関口頌悟 5000m 決 3位
石原 翔 3000mSC 決 4位
金井美海 3000mSC 決 5位
須田貴士 5000mW 決 2位
佐藤誠一郎 5000mW 決 4位
市川響太郎 棒高跳 決 6位
4×400mR(真鍋・田代・高橋・古市)決 5位
※上記12種目で関東選手権大会(熊谷)
に出場

⑦学校対抗(前橋)

男子総合成績 第4位
※一部校残留

水 泳 部

⑥背泳ぎ50m 山崎雄哉 1位
若山工雄 4位
背泳ぎ100m 山崎雄哉 3位
若山工雄 4位
バタフライ50m 堀込怜土 3位
バタフライ100m 堀込怜土 3位
200mフリーリレー(若山・堀込・山崎・上原)2位
200mメドレーリレー(若山・山崎・堀込・上原)2位

⑦関東高等学校水泳競技大会群馬県予選会
男子総合 第6位

自由形100m 柳 義裕 7位
自由形200m 柳 義裕 3位
個人メドレー200m 神原孝行 2位
個人メドレー400m 神原孝行 2位
400mフリーリレー(神原・柳・下田・関口)4位
400mメドレーリレー(柳・下田・神原・関口)5位

⑦群馬県高校総体

男子総合 第5位
バタフライ100m 柳 義裕 5位
バタフライ200m 柳 義裕 3位
個人メドレー200m 神原孝行 2位
個人メドレー400m 神原孝行 2位
400mフリーリレー(神原・柳・下田・関口)4位
800mフリーリレー(柳・神原・関口・堀込)5位

400mメドレーリレー(柳・下田・神原・関口)5位

山 岳 部

①3位(関東大会へ)

ソフトテニス部

①団体 2回戦 高崎3-0尾瀬
3回戦 高崎2-0桐生
4回戦 高崎2-1太工
決勝リーグ 高崎3-0高商
高崎3-0前橋
高崎2-1沼田
(28年ぶり)優勝(関東大会へ)

個人 深堀・熊組、蛭間・池田組、
新島・有川組、奈良・中島組
9位(関東大会へ)

③団体 2回戦 高崎3-0新田曉
3回戦 高崎2-0中之条
4回戦 高崎0-2農二
(ベスト8)

個人 奈良・中島組、岸・高橋組 9位

⑥団体 2回戦 高崎3-0桐生
3回戦 高崎2-0前橋
4回戦 高崎0-2高商
(ベスト8)

個人 奈良・中島組 ベスト16

⑦関東高校選抜大会県予選1年生大会

個人 奈良・中島組 第3位

団体 1回戦 高崎2-1館商工
2回戦 高崎2-0伊市高
3回戦 高崎1-2前商
(ベスト8)

テ ニ ス 部

①団体 2回戦 高崎3-0桐工
3回戦 高崎2-1館商工
準々決勝 高崎0-2太田
(ベスト8)

バスケットボール部

①1回戦 高崎90-35勢多農
2回戦 高崎78-46商大附
3回戦 高崎101-75新島
準々決勝 高崎50-92太東
(ベスト8)

⑦群馬県高等学校バスケットボール選手権大会
兼第62回全国高等学校総合体育大会予選会
1回戦 高崎95-24前橋工業
2回戦 高崎102-22尾瀬

3回戦 高崎66-59中央中等
準々決勝 高崎54-119前橋育英
(ベスト8)

第41回全国高校バスケットボール選
抜優勝大会県予選会

2回戦 高崎81-61沼田
3回戦 高崎103-86太田工業
4回戦 高崎89-58太田
準々決勝 高崎66-98桐生第一
(ベスト8)

西毛地区新人バスケットボール大会

2回戦 高崎89-44健大高崎
3回戦 高崎95-38高崎東
準決勝 高崎97-70中央中等
決勝 高崎86-93高崎商業(2位)

バレーボール部

- ①3回戦 高崎2-0育英
準々決勝 高崎2-0伊商
準決勝 高崎2-0前商
決勝 高崎1-2伊勢崎(2位)
- ③4回戦 高崎2-0太商
準々決勝 高崎2-0藤中央
準決勝 高崎2-0伊商
決勝 高崎2-1伊勢崎(優勝)
- ④予選グループ戦
高崎0-2東京学館新潟(新潟)
高崎0-2県立別府鶴見丘(大分)
(予選グループ戦敗退)
- ⑤群馬県選抜として4名参加
(武井雅行・菊地新太・砂川智哉・田中卓)
1回戦 群馬2-1香川
2回戦 群馬0-2福岡(ベスト16)
- ⑥全国高校バレーボール選手権県予選
3回戦 高崎2-0館商工
準々決勝 高崎2-0桐生
準決勝 高崎1-2桐生市商(第3位)
- ⑦西毛地区大会
2回戦 高崎2-0榛名
準決勝 高崎2-0高工
決勝 高崎2-0高北(優勝)

卓球部

- ①団体 1回戦 高崎3-0板倉
2回戦 高崎3-0商大附
3回戦 高崎0-3沼田
(ベスト16)
- ③団体 2回戦敗退
- ⑤個人 宮原丈太郎 ベスト64
- ⑥団体 2回戦敗退

剣道部

- ①2回戦 高崎1-1桐生(本数勝)
3回戦 高崎5-0館林
準々決勝 高崎0-4育英(ベスト8)
- ③団体 ベスト8
- ⑦学年別剣道大会(個人戦)
1年生の部 戸塚貴昭 ベスト8

柔道部

- ①団体 1回戦 高崎3-1富岡
2回戦 高崎3-0興陽
準々決勝 高崎3-0常磐
準決勝 高崎1-3前商
(ベスト4)(関東大会へ)
- ③団体戦 3位
個人戦 角田裕祐 100kg級 3位
- ⑥団体戦 3位
- ⑦群馬県ジュニア体重別選手権大会
角田裕祐 100kg級 3位

弓道部

- ①団体 ベスト16

空手道部

- ①個人形 澁谷隼人 ベスト16
団体形 3回戦(高崎0-7高経附)5位
団体組手 3回戦(高崎2-3前工)5位
- ③団体組手 第5位(ベスト8)
- ⑥個人組手 澁谷隼人 第5位(ベスト8)
- ⑦群馬県高等学校空手道1・2年生大会
個人組手 澁谷隼人 第5位(ベスト8)

軟式野球部

- ①準々決勝 高崎1-0館林
準決勝 高崎9-1前工(7回コールド)
決勝 高崎5-1育英
(16年ぶり2回目)優勝
(第58回春季関東高等学校軟式野球大会に出場)
- ③全国選手権予選
2回戦 高崎1-5太田
- ⑥1回戦 高崎1-2太田(延長11回)

バドミントン部

- ①個人 ダブルス 熊王・須藤組 ベスト16
団体 1回戦 高崎2-0高経附
2回戦 高崎2-0榛名

3回戦 高崎1-2渋川

- ③シングルス 須藤 ベスト32
熊王 ベスト64
松田 ベスト64
- ダブルス 熊王・須藤組 ベスト16
松田・永野組 ベスト64
小林・福田組 ベスト64
米山・金子組 ベスト64

④学校対抗戦

2回戦 高崎0-3新島

- ⑤シングルス 熊王 ベスト32
ダブルス 熊王・須藤組 ベスト16
- ⑥シングルス 大竹 ベスト32
ダブルス 大竹・今井組 ベスト64

学芸部の活動

数学部

- 全国数学選手権大会 団体戦 math battle
地区大会 1次・2次予選
突破→全国大会進出
- 全国大会 3次予選
突破→決勝戦(6チーム)進出
決勝戦 入賞

物理部

- 文部科学省主催物理チャレンジコンテスト参加
○構造解析(廃棄自転車等解体)
○プログラミング作業

写真部

- 高文連主催夏の撮影会 参加
○第27回県高校写真展 出品
入選「花見」1年 大木啓太

文芸部

- 第25回全国高等学校文芸コンクール
文芸部誌部門 奨励賞 群馬県立高崎高校
文芸部「高文藝」 第3号
- 第5回群馬県高校生文学賞 文芸部誌部門
優良賞「高文藝」 第3号
- 第5回群馬県高校生文学賞 散文部門
優良賞 山室匡史(1年)
- 第16回群馬県高等学校総合文化祭文芸部
門交流会
短歌 講師賞 磯辺大輔(2年)・山室匡史(1年)

美術部

- 11月/第34回群馬県高校芸術祭美術工
芸部門展
4名 計7点出展
優良賞 入選 3年 稲熊詩郎



囲碁部 3年 笹口桂佑

私は今年度の全国大会で主将として出場した団体戦で四位、個人戦では五位でした。誰にも負けるわけがないと意気揚々と大会に臨んだ私には少し残念な結果ではありましたが、全国のレベルの高さを肌で実感できたことは大変良かったです。最後に今大会で私は己の信念を貫き通すことの大切さを学びました。

吹奏楽部

- 1月/アンサンブルコンテスト西関東大会(山梨)
フルート3重奏 金賞
打楽器4重奏 銀賞
- 5月/ソロコンテスト西部地区大会
安富元彦(オーボエ) 金賞(地区代表)
- 6月/ソロコンテスト県大会
安富元彦(オーボエ) 金賞
- 8月/吹奏楽コンクール県大会
高校A組 銀賞
- 11月/アンサンブルコンテスト西部地区大会
- 12月/アンサンブルコンテスト県大会

マンドリン部

- 7月/第43回定期演奏会(於:群馬音楽センター)
- 7月/第40回全国高校ギター・マンドリンフェスティバル出場(於:大阪府吹田市文化会館メイシアター) 優秀賞受賞
- 8月/第34回全国高等学校総合文化祭宮崎大会に前橋高校・前橋女子高校とともに群馬県合同ギター・マンドリン合奏団として出場(於:宮崎県宮崎市民文化会館)
- 9月/第6回群馬学生ギター・マンドリンフェスティバル出場(於:高崎市民文化会館)
- 12月/吹奏楽部・合唱部と合同でクリスマスコンサート開催(於:翠雲会館)

合唱部

- 4月/群馬県立高崎女子高等学校定期演奏会出演(高崎女子高等学校音楽部と共演)(於:高崎市文化会館)
- 7月/群馬県高等学校芸術祭音楽部門団体演奏会(於:群馬音楽センター)
- 7月/第50回群馬県合唱コンクール(於:伊勢崎市文化会館大ホール)
- 8月/第34回全国高等学校総合文化祭合唱部門(群馬県合同合唱団として参加)(於:メディキット県民文化センター・アイザックスターンホール)
- 8月/第77回NHK全国学校音楽コンクール群馬県コンクール(於:ベイシア文化ホール)
- 8月/演奏会2010(於:高崎シティギャラリー・コアホール)
- 11月/第16回群馬県高等学校総合文化祭総合開会式アトラクションに参加(於:群馬音楽センター)

- 11月/第16回群馬県高等学校総合文化祭合唱・器楽管弦楽・吹奏楽3部門合同演奏会(高崎・高崎女子高校合同合唱団として参加)(於:群馬音楽センター)
- 12月/第13回クリスマスコンサート(於:翠雲会館ホール)

和太鼓部

- 4月/高崎スプリングフェスティバル参加
- 5月/観音山ファミリーパーク
県民参加フェスタ 参加
- 7月/高崎市西部公民館
読み聞かせ夏祭り 依頼演奏
- 7月/八千代町二丁目町内会 納涼祭
依頼演奏
- 8月/第36回高崎まつり 参加
- 8月/城南小学校地区 納涼祭 依頼演奏
- 9月/第4回群馬県高校生郷土芸能発表会 参加
- 10月/高崎高校55期同窓会 依頼演奏
- 11月/第16回群馬県高等学校総合文化祭開会式アトラクション演奏
郷土芸能発表会 優秀賞
- 11月/第24回高崎市農業まつり 依頼演奏

放送メディア部

- NHK杯全国高校放送コンテスト県予選
テレビドラマ部門 最優秀賞
テレビドキュメント部門 最優秀賞
ラジオドラマ部門 優秀賞
- 全国高等学校総合文化祭(宮崎大会)
ビデオメッセージ部門 参加
- 県高校放送コンクール
ビデオメッセージ部門 優秀賞
オーディオビジュアル部門 優秀賞
アナウンス部門 優良賞

JRC部

- 5月/高校生協議会
- 7月/高校生リーダーシップTC
- 10月/あしなが募金 観音山清掃
- 11月/県高等学校総合文化祭参加 地区TC
- 12月/ワークショップ発表会
歳末助け合い募金

囲碁部

- 4月/第34回全国高校囲碁選手権大会

群馬県大会

団体戦 優勝

(笹口桂佑、小澤弘季、石関圭輔)

- 5月/第34回全国高校囲碁選手権大会
群馬県大会
個人戦 優勝(笹口桂佑)
第2位(石関圭輔) 第4位(小澤弘季)
- 7月/第1回高崎高校囲碁講習会
指導者:尾越一郎(八段)、参加生徒5名
- 7月/第2回高崎高校囲碁講習会
指導者:平本弥星(六段)、参加生徒5名
- 7月/第34回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会
団体戦 第4位
(笹口桂佑、小澤弘季、石関圭輔)
個人戦 第5位(笹口桂佑)、参加(石関圭輔)
- 7月/第34回全国高等学校総合文化祭
個人戦 13位(小澤弘季)
- 10月/第26回関東地区高等学校囲碁選手権大会群馬県予選会
団体戦 優勝
(小澤弘季、小泉太嘉志、矢野真)
- 個人戦 優勝(小澤弘季)
- 1月/第26回関東地区高等学校囲碁選手権大会
団体戦 出場
(小澤弘季、小泉太嘉志、矢野真)
- 個人戦 出場(小澤弘季)

将棋部

- 第37回群馬県高等学校将棋選手権大会
団体戦 優勝
(3年、井上和樹・松澤知紀・柳澤遼宗)
- 第46回全国高等学校将棋選手権大会出場
予選2勝2敗・敗退
- 第21回関東地区高等学校文化連盟将棋大会
県予選 2年、飯島一真 3位
- 第21回関東地区高等学校文化連盟将棋大会
出場

鉄道研究部

- 8月/上毛電気鉄道 夏休みイベント
参加
- 8月/第2回全国高等学校鉄道模型コンテスト(東京) 見学
- 9月/上信電鉄 鉄道感謝フェア 参加
- 11月/第16回群馬県高等学校総合文化祭
参加

新聞部

- 第14回全国高校新聞年間紙面審査賞
優良賞
- 第24回群馬県高校新聞コンクール
県議会議員賞
- 全国高校総合文化祭宮崎大会参加
(入賞校として)
- 群馬県高校総合文化祭特報新聞
「上州若人」取材参加
- 「高崎高校新聞」・「高崎高校新聞翠雲MiniPress」発行
- 定期戦速報「前高高合同新聞」発行
(県立前橋高校新聞委員会と合同製作)

第64回定期戦5連勝!

定期戦を終え、5連覇という偉業を成し遂げた今、みんなに「ありがとう」の感謝を伝えたい。これが自分の

素直な気持ちです。

今回の定期戦は間違いなく、高々生960人全員で掴み取った勝利だったと思います。当日が近づくにつれ不安になる時もありましたが、そんな自分を支え助ましてくれたのは、紛れもない高々生の定期戦へ懸ける思いでした。実行委員長という大役を務め、この仲間達と共に闘えたのは一生の誇りです。

そして前高生にもありがとう。3年間を通じて、高々は前高の存在があるからこそもっと強くなろうと努力し、勝利に向かって一つになれるのだと気が付きました。来年は全てに於いてより充実し、有意義なものになる事を願っています。

最後に、今年度で御退職なさる藤倉校長先生へ「5連覇」という華を添える事が出来、非常に嬉しく思っています。また、第64回定期戦を開催するにあたり、御尽力下さった全ての方へ深い感謝と共に、これからも文武両道に励む高々生へ、より一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。喜びの御報告とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

第64回定期戦実行委員長 高橋 弘樹



進路状況(全日制) ()内は現役

大学	年次	20年	21年	22年	大学	年次	20年	21年	22年
北大		4(3)	4(3)	10(6)	慶應大		71(50)	41(32)	38(21)
東北大		35(34)	17(13)	21(17)	早稲田大		81(60)	83(67)	53(33)
筑波大		11(9)	7(5)	11(10)	中央大		88(75)	76(70)	59(44)
千葉大		15(14)	7(6)	7(7)	明治大		118(98)	116(103)	94(69)
群馬大		29(25)	22(20)	26(21)	上智大		2(0)	8(8)	7(4)
(医)		8(8)	0(0)	6(4)	立教大		25(11)	27(19)	21(14)
埼玉大		9(7)	6(6)	5(4)	学習院大		2(2)	4(2)	3(1)
東京大		13(10)	17(17)	9(4)	青山学院大		15(13)	21(15)	16(14)
一橋大		4(4)	1(1)	2(1)	法政大		35(32)	31(24)	42(36)
東工大		7(4)	5(5)	4(3)	日本大		52(43)	39(34)	70(58)
東外大		0(0)	5(5)	0(0)	東京理科大		159(144)	65(54)	99(74)
横国大		8(7)	4(3)	3(2)	芝浦工業大		61(59)	51(42)	57(53)
新潟大		8(5)	16(12)	8(5)	同志社大		19(18)	18(12)	3(2)
金沢大		10(10)	8(7)	5(5)	立命館大		9(1)	3(3)	11(7)
信州大		3(1)	3(3)	2(1)					
名古屋大		0(0)	1(1)	3(3)					
京都大		5(4)	3(2)	2(1)	高経大		11(11)	8(6)	11(8)

第64回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		水泳	6	3
		駅伝	6	3
		綱引き	3	6
		玉入れ	6	3
		ソフトボール	6	3
		長縄	0	6
0	6	卓球	2	7
6	0	陸上競技	6	3
6	0	ソフトテニス	0	9
6	0	バレーボール	4	5
6	0	バスケボール	4	5
6	0	柔道		
0	6	剣道		
0	6	弓道		
0	6	空手道		
6	0	サッカー		
6	0	ラグビー		
6	0	硬式野球		
0	6	軟式野球		
6	0	テニス		
54	30	小計	43	53
97	高	総合	前高	83

人事異動(平成22年度)

〈退任者・転出者〉

副校長 松原 真介 退職/国語 宮崎 秀明 退職
 理科 小林 正好 退職/養護教諭 中野 陽子 退職
 教頭 増田 芳之 桐生南(校長)
 地理歴史 澁谷 正章 浜川女子/数学 大野 俊彦 富岡東
 数学 関根 正弘 富岡/英語 田中 雅徳 中央中等
 英語 矢島 宏三 長野原/事務 金井 工 松井田
 事務 富岡 明美 下仁田
 通信制(理科) 戸塚みどり 高崎東

〈新任者〉

副校長 金井 尚之 高経大附(教頭)
 教頭 武藤 正美 赤城養護伊勢崎分校
 国語 加邊 一芳 浜川女子/地理歴史 西村 淳也 藤岡中央
 数学 中川 浩之 太田/数学 下田 真志 沼田
 理科 小野 智信 浜川青翠/英語 下田 信康 藤岡中央
 英語 井田 夕子 高崎東/養護教諭 新井 初代 前橋南
 事務 木村 宏 盲/事務 高橋香代子 前橋西
 通信制(理科) 牧野 誠司 藤岡中央

同窓会本部 INFORMATION

◇本部活動報告

- 1月12日(火) 会計監査会
- ◆ 14日(木) 第1回本部幹事会
- ◆ 16日(土) 第1回常任理事会
- ◆ 23日(土) 第108回総会
- 3月30日(火) 第2回本部幹事会
- 4月24日(土) 第2回常任理事会
- 5月23日(日) 第17回同窓会ゴルフ大会
- 6月15日(火) 第1回理事会
- 8月26日(木) 第3回本部幹事会
- 9月11日(土) 第3回常任理事会
- 11月26日(金) 第2回理事会

◇本部役員人事

平成22年度教職員異動に伴う役員人事。

副会長

(旧) 松原 真介(副校長) 退職

増田 芳之(教頭) 転出 桐生南校長へ

(新) 金井 尚之(副校長) 新任 高経附より(74期)

武藤 正美(教頭) 新任 赤城養伊勢崎分校より

◇訃報

喜美候部 圭吾氏 87歳 6月23日逝去

同窓会常任理事、高崎山清涼院龍廣寺第28世住職。

長野 皓脩氏 73歳 9月15日逝去

同窓会常任理事、元群馬県商工労働部長

謹んでご冥福をお祈り致します。

翠樹文庫 BOOK

平成21年10月1日～平成22年9月30日

◆翠樹文庫について◆

翠樹文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

●著書

- ☐ 日本人沈没
- ☐ 紫文式都々逸のスズメ
- ☐ 29歳の離陸
- ☐ 100歳をご機嫌で生きる力
- ☐ 教える・学ぶC言語入門
- ☐ 青春の墓標
- ☐ 小島鐵工所200年史
- ☐ 河合栄治郎
- ☐ テーブルの下に S61年～H9年
- ☐ テーブルの下に H10年～H20年
- ☐ 大航海時代 侵略の源
- ☐ 北アメリカのインディアン
- ☐ 激動の人生九十有余年
- ☐ 日本一周歩いて16年
- ☐ 高崎高校同窓会52期「75歳」記念(随想集)
- ☐ 予防と養生1～3(雑誌)
- ☐ 世界「伝統食」賛歌
- ☐ 読書の力ー国語授業と学校図書館の連携ー
- ☐ マロニエの花は蓮の上に 田中佐一郎
- ☐ 波濤を越えて
- ☐ 先達の航跡 田中健夫先生を偲ぶ

●作者

- 柳家 紫文(ヤナギヤ・シモン)(通信21期)
- 柳家 紫文(ヤナギヤ・シモン)(通信21期)
- 中島 桂一(78期)
- 須藤 宣(ストウ・ヤスシ)(49期)
- 牛田 敬太(95期)
- 胡五十鳥舟(小磯 正文)(定時22期)
- 小島鐵工所200年史刊行委員会編(56期)
- 松井 慎一郎(85期)
- 堀口 星眠(堀口 慶次)(39期)
- 堀口 星眠(堀口 慶次)(39期)
- 清塚 昇(42期)
- 清塚 昇(42期)
- 松田 貞吾(31期)
- 早川 吉夫(55期)
- 古関 武雄集代表(52期)
- 飯野 節夫(52期)
- 飯野 節夫(52期)
- 村田 信伸・太田 克子著(78期)
- 竹内 國雄(50期)
- 大木 紀元(58期)
- 田中健夫先生を偲ぶ会編

平成二十二年
褒章・叙勲受章者
(敬称略)

〈平成22年春の叙勲〉

- 旭日双光章 石井 清一(57期)
- 旭日双光章 田口佐知雄(52期)
- 瑞宝中綬章 永井 憲一(49期)
- 瑞宝双光章 杉山 了(50期)

〈平成22年秋の褒賞〉

- 藍綬褒賞 有田 喜一(60期)
- 黄綬褒賞 大沢信太郎(63期)

〈平成22年秋の叙勲〉

- 瑞宝小綬章 太田 悦郎(49期)
- 瑞宝小綬章 森 貴信(55期)
- 瑞宝小綬章 八木 恒(57期)
- 瑞宝小綬章 小林 二郎(57期)
- 旭日双光章 須田 守侯(53期)

〈平成22年度 文部科学大臣表彰〉

- 藤倉 新一(現校長・68期)

第109回高中高同窓会新年総会のご案内

同窓生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
 今回の新年総会は、私達80期が担当させていただくこととなりました。心に残る新年総会になることを目標に、諸先輩のご指導、ご助言を仰ぎながら準備を進めております。
 懇親会も、楽しい会になるように企画の準備を進めておりますのでご期待ください。
 同期の方々、先輩後輩の方々お誘い合わせのうえ一人でも多くの、同窓生の皆様のご出席を心よりお待ちしております。
 期日:平成23年1月22日(土) 時間:午後3時より
 場所:高崎ビューホテル 会費:5,000円(当番期80期代表 笹口 修男)

平成22年度 創立記念講演会

●平成22年5月20日(木)
 「私とラグビー人生
 —ワールドカップ誘致について—」
 日本ラグビーフットボール協会
 副会長 専務理事
 ラグビーワールドカップ2015/2019
 日本招致委員会 委員長 眞下 昇 氏(56期)

高高同窓会 予算決算報告

平成21年度 通常会計決算(平成21年1月1日~平成21年12月31日)

収入の部			
費目	平成21年度予算	平成21年度実績	備 考
前年度からの繰越金	979,159	979,159	
入 会 金	3,100,000	3,289,700	全日制323名、通信制46名
維持会費	6,000,000	6,415,480	2,215人
利 息	10,841	2,265	
雑 収 入	10,000	1,500	ネクタイピン販売
合 計	10,100,000	10,688,104	

支出の部			
費目	平成21年度予算	平成21年度実績	備 考
会 議 費	1,000,000	986,820	新年総会準備ほか
祝 賀 費	800,000	809,841	叙勲記念・卒業証書九箇ほか
饗 別 費	300,000	200,000	20年度離任職員へ
慶 弔 費	200,000	170,050	
通信印刷費	420,000	461,406	新役員依頼通知・維持会費督促・納入礼状ほか
旅 費	100,000	90,000	東京同窓会出席
会報発送費	2,000,000	1,505,880	
同窓会報費	1,000,000	998,161	
事 務 費	1,500,000	1,224,519	事務職員人件費・事務用品
同窓会長賞費	200,000	79,590	賞状・記念品
補 助 費	1,100,000	1,100,000	図書館・翠樹体育・ヒューマンサイエンス
環境整備費	500,000	231,000	指月庭維持管理費
雑 費	300,000	224,960	維持会費振込み手数料、維持会費戻しほか
予 備 費	680,000	724,660	同窓会報 訂正
合 計	10,100,000	8,806,887	

差引残高 1,881,217円 (特別会計積立 100万円 次年度繰越金881,217円)

特別会計積立

収入の部		前年度からの繰越金	20,146,090
		平成20年度通常会計より	2,000,000
		利 息	84,491
		合 計	22,230,581
支出の部		校歌・応援歌CD作成費	1,948,592
		差引残高	20,281,989円

平成22年度 通常会計予算案(平成22年1月1日~平成22年12月31日)

収入の部				
費目	平成22年度予算案	前年度予算	増 減	備 考
前年度からの繰越金	881,217	979,159	△97,942	
入 会 金	3,168,000	3,100,000	68,000	全日制320名(9900)
維持会費	6,000,000	6,000,000	0	
利 息	8,783	10,841	△2,058	
雑 収 入	110,000	10,000	100,000	CD売り上げ
合 計	10,168,000	10,100,000	68,000	

支出の部				
費目	平成22年度予算	前年度予算	増 減	備 考
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0	新年総会準備ほか
祝 賀 費	800,000	800,000	0	叙勲記念・卒業証書九箇ほか
饗 別 費	300,000	300,000	0	21年度離任職員饗別
慶 弔 費	200,000	200,000	0	
通信印刷費	420,000	420,000	0	維持会費督促・納入礼状ほか
旅 費	100,000	100,000	0	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	2,000,000	2,000,000	0	
同窓会報費	1,000,000	1,000,000	0	
事 務 費	1,500,000	1,500,000	0	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	200,000	200,000	0	賞状・記念品
補 助 費	1,600,000	1,100,000	500,000	図書館・部活動・翠樹体育・ヒューマンサイエンス
環境整備費	500,000	500,000	0	指月庭整備
雑 費	300,000	300,000	0	
予 備 費	248,000	680,000	△432,000	
合 計	10,168,000	10,100,000	68,000	

特別会計積立

収入の部		支出の部	
費目	金 額		
前年度からの繰越金	20,281,989	なし	
平成21年度通常会計より	1,000,000		
利 息	18,011		
合 計	21,300,000		

第三回高崎高校OB 囲碁大会開催のお知らせ

- 1.月 日 平成23年2月13日(日)
 - 2.場 所 高崎中央公民館(2F・第2学習室)
 - 3.時 間 9時20分集合、9時45分対局開始
 - 4.対戦方法 ハンデ戦、4回戦(どなたでも4回は対局)
 - 5.会 費 2,000円(昼食代他を含む)
 - 6.表 彰 A・Bブロック 1位・2位(特別賞・3勝賞ほか)
- *駐車場/第2駐車場をご利用下さい。
 *連絡先/参加希望者は事務局・藤崎までご連絡下さい。
TEL:090-3573-7475

維持会費の納入について

平成23年度の維持会費の納入をお願いいたします。
 納入については、同封の振込取扱票(加入者名—群馬県立高崎高等学校同窓会)もお使いいただけますが、ATMのご利用をお願いいたします。



群馬県立高崎高等学校 同窓会報

発行人:原 浩一郎
 編集委員:田端 稔(54期) 吉永哲郎(54期)
 大木紀元(58期) 若山 享(58期)
 熊野卓司(66期)
 新井重雄(78期) 島田 学(83期)



同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第44号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
 御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださりまして、まことにありがとうございました。(本部幹事会)

〈維持会費の納入については、なるべくATMをご利用下さい〉